

森町地域公共交通計画（たたき台）

■地域及び公共交通の現状と課題

	現状	問題点	課題
人口	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少・少子高齢化の進行 生産年齢人口(15～64歳)の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 家族等による送迎が困難になっていることが想定される 	<ul style="list-style-type: none"> 森町で暮らし続けるための、利用者ニーズに即した公共交通網の構築が必要
機能市	<ul style="list-style-type: none"> 郊外部は散居形態 郊外部の高齢化は特に深刻化 	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスほどの需要はなく、かつ高齢化の影響でバス停まで歩くことが困難な町民が存在していることが想定される 	
町内交通	<ul style="list-style-type: none"> 市街地に人口が集中 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地でも路線バスのバス停から離れた地域が存在しており、公共交通が利用されない要因として想定される 	<ul style="list-style-type: none"> 町民の特性を考慮した、利便性の高い公共交通の導入が必要
広域交通	<ul style="list-style-type: none"> 生活関連施設（商業・医療・公共施設）の多くは、市街地に集積 	<ul style="list-style-type: none"> 郊外部から市街地に移動する必要があるが、市街地までの公共交通が生活実態と離れている可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> 町民が利用しやすい公共交通網の構築を行うとともに、町民が公共交通を使おうと思う意識醸成、利用頻度向上のための施策が必要
経費	<ul style="list-style-type: none"> 町内路線として4系統が運行されており、通学・通院・買い物などの目的で利用 利用者が0人の路線や1便当たり利用者が5人/便の系統も存在 	<ul style="list-style-type: none"> 生活移動での利用があるものの、通学時間帯を除き、低利用 郊外部でのJR利用頻度が低下 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地における利用しやすい公共交通の導入が必要
	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通を利用できる環境下にある町民は約8割 郊外部に多くの公共交通空白地域が存在 	<ul style="list-style-type: none"> 地形的にバス停までのアクセス距離が遠い町民が市街地にも多く存在 	<ul style="list-style-type: none"> 広域交通であるJRや路線バスとの接続性を確保した町内交通の構築が必要
	<ul style="list-style-type: none"> JR・路線バスともに通勤・通学時間帯の利用は多い 	<ul style="list-style-type: none"> 日中時間帯の利用が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 病院送迎バスなどの民間の資源も活用し効率的に公共交通網を構築することが必要
	<ul style="list-style-type: none"> 森町内の停車箇所は限定的で移動の利便性は高くない 交通環境の変化によるサービス水準低下が懸念される 	<ul style="list-style-type: none"> 町内移動における路線バス、JRの活用は使い勝手が悪い可能性がある 	
	<ul style="list-style-type: none"> 生活移動に要している経費は、年間7,500万円程度 	<ul style="list-style-type: none"> 全町民向けの施策は、路線バスの維持のための負担金に限られている 	

方針 基本

爽やかなまち

もりまちをみんなで創り続けるための公共交通網の構築

方向性① 町民主導で考える利便性の高い町内公共交通網の構築

R3年度に内容を検討

方向性② 町民の広域的な移動を確保する町内交通と広域交通の連携

R3年度に内容を検討

方向性③ 町民とともに公共交通を考える機会の創出

R3年度に内容を検討

方向性④ 持続的な公共交通の確保・維持に向けた体制の強化

R3年度に内容を検討

■公共交通に関する各種調査結果から見えるニーズと課題

	ニーズ	課題
アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> アンケート回答者の運転意向は約4割と、今後高齢者が増加する中で、事故のリスクが高まることが懸念 駒ヶ岳・赤井川地区に関しては6割強が函館市、3割強が七飯町、約2割が北斗市へ買い物目的の移動を行っている 石谷石倉地区、濁川地区は八雲町への移動も見られる 郊外部の地域において、「自宅から目的地の近くまで行くことができる」・「利用したい時間帯に運行している」交通を望む割合が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車に依存しなくてもよい公共交通網の構築が必要 町民の生活圏を考慮した、公共交通網の構築が必要 需要やニーズに即した公共交通の導入が必要
意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> 自宅まで迎えに来る交通やタクシー補助など、地域の利用ニーズに合った生活の足を確保してほしい 介護タクシーと連携なども方向性として検討すべきではないか 曜日を限定した交通でも良い 子どもたちの移動の足は確保すべき 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の輸送資源をフル活用しつつ、子どもたちをはじめとする町民の生活の足を確保する公共交通網の構築が必要
	<ul style="list-style-type: none"> 温泉施設までの送迎など、余暇目的にも利用できる交通を確保してほしい 市街地内をきめ細かく運行する交通を運行してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の周遊性を確保し、かつ温泉施設などへの接続を確保した公共交通の導入が必要